

機関番号：12401

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2007～2010

課題番号：19202028

研究課題名（和文） 都市と文明の起源に関する人類史的研究  
—アンデスにおける形成期研究の再構築—研究課題名（英文） Anthropological Studies on the Origins of City and Civilization:  
Reconsideration of the Formative Studies in the Andes

研究代表者

加藤 泰建 (KATO YASUTAKE)

埼玉大学・副学長

研究者番号：00012518

研究成果の概要（和文）：アンデス初期文明の展開は都市の萌芽的形態を示すカルル遺跡を出発点としクントゥル・ワシ遺跡などの神殿を中心とする独特な社会の形成を帰結とする時間的枠組みでとらえるべきである。これを形成期と呼び、年代資料も含めた実証的データの分析から、以下のような新しい形成期の編年を確立させた：早期（3000-1800BC）、前期（1800-1200BC）、中期（1200-800BC）、後期（800-250BC）、末期（250-50BC）。

研究成果の概要（英文）：The development of the early Andean civilization should be considered in the framework of the Formative Period which started at Caral where the initial step for urbanization could be seen. The final goal of this peculiar process was a unique society with a large temple such as Kuntur Wasi. The new chronology of the Formative Period is divided as follows; Initial (3000BC-1800), Early (1800-1200), Middle (1200-800), Late (800-250) and Final (250-50BC).

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	8,700,000	2,610,000	11,310,000
2008年度	8,000,000	2,400,000	10,400,000
2009年度	6,700,000	2,010,000	8,710,000
2010年度	6,600,000	1,980,000	8,580,000
年度			
総計	30,000,000	9,000,000	39,000,000

研究分野：文化人類学、アンデス先史学

科研費の分科・細目：文化人類学 文化人類学・民俗学

キーワード：文化人類学、先史学、考古学、アンデス、ペルー、クントゥル・ワシ、形成期

## 1. 研究開始当初の背景

（1）都市と文明の起源に関する人類史的研究は 1960 年代まで人類学の重要なテーマの一つであったが、実証的データが決定的に不足していたため理論的深化に至らなかった。

（2）1970 年代以降は考古学データが蓄積され、研究の精緻化、個別事象の解明が大き

く進展したが、逆に、大きな人類史的枠組み、広い地理的な視野での議論について抑制的で慎重な態度をとり続ける傾向にあった。

（3）1980 年代後半より本研究代表者らが発掘を行ったペルーのクントゥル・ワシ遺跡の調査成果から都市と文明の起源に関する新しい見通しを与えることが可能になった。

## 2. 研究の目的

(1) アンデスにおける都市と文明の起源やその形成と発展について、これまでに蓄積されてきた考古学データを、あらためて人類史的観点から整理して再検討を行う。

(2) 事例の分析からアンデスにおける都市と文明の起源についての総合を試み、とりわけ地域の特異性に着目した理論的整理を行う。

(3) アンデスを対象とした研究成果を踏まえて広く「都市と文明の起源に関する人類史的研究」に資する具体的な課題や方法、理論的な枠組みなどを抽出する。

## 3. 研究の方法

### (1) 研究グループの組織化

1990年代のクントゥル・ワシ遺跡発掘調査の成果を受けて日本でも多くの若手研究者がペルー各地において調査を始め、とりわけ都市と文明の起源に関わる時期にあたる形成期についての新しい知見を蓄積しつつある。また、考古学のみならず自然科学のいろいろな分野の研究者もあらたに研究に加わり始めている。そこで共同研究グループを組織し、それぞれが行っている個別の研究課題や研究手法などを集約して形成期研究の再構築を図る。

### (2) 研究グループ内のデータ共有化と海外研究者との連携

クントゥル・ワシ調査研究の成果としてまとめた遺跡データベースを一つのモデルとして活用し、それをさらに充実させるとともに、研究グループに加わるメンバーがそれぞれ各地で展開している遺跡調査のデータ共有化を図る。また日本のグループではカバーできない領域において調査研究を実施している海外の研究者と緊密なネットワークを構築し、データの相互利用を図る。

### (3) 個別情報の重点的収集

都市と文明の起源に関わる重要遺跡として、現在大規模に発掘調査を行っているカラル遺跡とパコパンパ遺跡に焦点をあて、調査者の協力を得て、その成果を本研究に反映させる。

### (4) 総合と理論化

国際的なワークショップやシンポジウムを開催し、海外の研究者を交えた意見交換を集中的に行い、研究成果のとりまとめを図るとともに理論構築を行う。

## 4. 研究成果

(1) アンデス初期文明の独特な展開の帰結は前800年頃(形成期後期)に広域社会の中心となった三つの神殿遺跡のデータから読み解くことができる。東京大学・埼玉大学チームが1988-2002年に調査を行ったクントゥル・ワシ遺跡、現在もスタンフォード大学が調査中のチャビン・デ・ワントル遺跡、国立民族学博物館とサンマルコス大学が2005年に調査を開始したパコパンパ遺跡である。これらの調査研究データの総合的な分析からは、アンデス文明の初期においては本格的な都市はついに形成されず、むしろ神殿を核とする独特な社会発展がみられたことがわかった。そして前800年頃には広域にわたる資源交換も行われるようになった。それら広域型と呼ぶ幾つかの神殿を中心とした相互ネットワークが社会統合の重要な機能を果たしたのである。

(2) 一方アンデスにおける最初の文明への歩みは前3000年に遡ることが確実となった。1996年以降サンマルコス大学が継続して実施してきたカラル遺跡での発掘調査の成果である。このカラル遺跡はあきらかに都市の萌芽的な形態を示す大遺跡である。しかしこれは前2000年頃になると放棄され、本格的な都市への発展はついに見られなかった。

(3) カラルにおいて都市への歩みを始めたかに見えるアンデスの初期文明は、なぜ本格的な都市を形成せず、特異な神殿社会の方向に進んだのか。この問題は、かつて人類史の普遍的発展プロセスと信じられていた都市から都市国家を経て王国や統一国家の出現に到る古代メソポタミア文明モデルとは大きく異なる古代文明のプロセスとして注目される。

(4) 都市と文明の起源という観点からは、アンデス初期文明の展開は、カラルでの萌芽的都市形成(前3000年)からクントゥル・ワシなどの広域型大神殿が姿を消す前250年を一つの概念的枠組み、すなわち形成期としてとらえて理解すべきである。

(5) これまで多くの研究者は都市と文明の起源を考える枠組みとしての形成期概念を避け、アンデス先史の編年としてはプラクティカルな時間的枠組みとしての先土器期(前1800年以前)、イニシャル期(前1800年-前800年)、前期ホライゾン期(前800年-前500年)などの用語を用いてきた。また形成期という用語を使用する場合にも単純にイニシャル期と前期ホライゾン期に対応させ、先土器期は古期として別の時期区分にしてきた。

(6) いずれにしても都市型遺跡カラル(前3000年-前2000年)は先土器期、あるいは古期として位置づけられることになり、前期ホライゾン期、あるいは形成期の一部にあたる広域型神殿遺跡クントウル・ワシヤパコパンパ、チャビン・デ・ワンタルと同じ問題関心の枠組みで捉えることができない。これらを全体的にとらえるためにも形成期概念の再検討が必要である。

(7) 本研究では年代資料も含めた実証的なデータをあらためて検討し、形成期を前3000年まで遡るものと再定義して、それをさらに早期(3000-1800BC)、前期(1800-1200BC)、中期(1200-800BC)、後期(800-250BC)、末期(250-50BC)とすることを提案した。

(8) 2008年にペルーのカトリカ大学で開催された国際シンポジウム「アンデス形成期：近年の成果と焦点」に研究グループのメンバーが9人参加して、それぞれの研究成果を発表するとともに、多くの海外研究者との実質的な意見交換を行った。その成果は2010年に *Boletín de Arqueología PUCP* の第12巻として公刊された。この論集の寄稿者16人のうち9人が日本の研究グループのメンバーである。ここでは、それぞれが取り組んでいる遺跡発掘の実証的データをもとに形成期問題への理論提起が行われた。

(9) 2008年に大阪の国立民族学博物館において国際ワークショップ「センターと社会プロセス：アンデス文明古期・形成期研究における概念とコンテクスト」を開催し、海外から代表的な研究者5名を招聘、日本側研究グループ12名と集中的な討論を行った。これを踏まえて、その後も意見交換を重ね2010年には参加者が論文を完成させた。現在、論集としての出版を準備中である。

(10) 2008年に古代地中海文明の研究者も交えて公開のシンポジウムを東京の読売ホールで開催、その後研究者グループの相互意見交換を踏まえて、2010年に成果を「古代アンデス：神殿から始まる文明」として公刊した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計17件)

① Seki, Yuji, J. P. Villanueva, M. Sakai, D. Aleman, M. Ordonez, W. Tosso, A. Espinoza, Kinya Inokuchi y D. Morales Nuevas evidencias del sitio arqueológico de Pacopampa, en la sierra norte del Perú, *Boletín de Arqueología PUCP*, 査読有, 12巻, 2010年, 69-95ページ

② Inokuchi, Kinya La arquitectura de Kuntur Wasi: secuencia constructiva y cronología de un centro ceremonial del Período Formativo, *Boletín de Arqueología PUCP*, 査読有, 12巻, 2010年, 219-247ページ

③ 荒田恵、関雄二、フアン・パブロ・ビジャヌエバ、マウロ・オルドーニェス、ディアナ・アレマン、ダニエル・モラーレス ペルー北部パコパンパ遺跡出土遺物分析概報(2007-2010) - 神殿における製作活動および儀礼活動についての一考察 -, *古代アメリカ*, 査読有, 13巻, 2010年, 73-94ページ

④ 加藤泰建 大神殿の出現と変容するアンデス社会, *古代アンデス：神殿から始まる文明*, 査読無, 2010年, 106~152ページ

⑤ Nagaoka, Tomohito, Yuji Seki, J. P. Villanueva, W. Tosso, Kinya Inokuchi, M. Orrdonez, D. Aleman, and D. Morales Human skeletal remains from the Pacopampa site in the northern highlands of Peru, *Anthropological Science*, 117(3), 査読有, 2009年, 137~146ページ

⑥ Sakai, Masato, Yuji Seki, J. P. Villanueva, W. Tosso y D. Morales Organización del paisaje en el Centro Ceremonial Formativo de Pacopampa, *Arqueología y Sociedad*, 査読有, 18巻, 2008年, 57-68ページ

[学会発表] (計24件)

① 関雄二、ディアナ・アレマン、鶴澤和宏、長岡朋人、ダニエル・モラーレス、フアン・パブロ・ビジャヌエバ、マウロ・オルドーニェス  
ペルー北高地パコパンパ遺跡における宗教的権威の交代,  
*古代アメリカ学会第15回研究大会*,  
2010年12月4日, 早稲田大学

② 関雄二、ディアナ・アレマン、鶴澤和宏、長岡朋人、荒田恵、坂井正人、ダニエル・モラーレス、フアン・パブロ・ビジャヌエバ、マウロ・オールドーニェス  
ペルー北高地パコパンパ遺跡における墓の発見，古代アメリカ学会第 14 回研究大会，2009 年 12 月 5 日，南山大学

③ Seki, Yuji, D. Aleman, Kazuhiro Uzawa, Tomohito Nagaoka, Megumi Arata, D. Morales, J. P. Villanueva, M. Orrdonez  
Descubrimiento de la tumba principal de Pacopampa, XVI Congreso Peruano del Hombre y la Cultura Andina y Amazónica "JULIO CÉSAR TELLO ROJAS", 2009 年 10 月 29 日，Universidad Nacional Mayor de San Marcos, Lima

④ Seki, Yuji, y J. P. Villanueva  
Cambio del poder en la sociedad del Periodo Formativo: desde el punto de vista de la sierra norte del Peru, 53° Congreso Internacional de Americanistas, 2009 年 7 月 20 日，Ciudad de México.

⑤ 井口欣也  
アンデス形成期における神殿建築の変容過程—クントゥル・ワシ神殿の 3D モデル化による分析から—，古代アメリカ学会第 13 回研究大会，2008 年 12 月 6 日，早稲田大学

⑥ Kato, Yasutake  
Las transformaciones del centro Formativo Kuntur Wasi: evidencias y una perspectiva, Taller Conmemorativo Internacional "Centro y Procesos Sociales" Concepto vs. Contexto en los Estudios sobre la Civilización Andina para los Períodos Arcaico y Formativo, 2008 年 11 月 29 日，国立民族学博物館

⑦ Inokuchi, Kinya  
Cronología del Período Formativo en la sierra norte del Perú: implicancias del caso de Kuntur Wasi, Taller Conmemorativo Internacional "Centro y Procesos Sociales" Concepto vs. Contexto en los Estudios sobre la Civilización Andina para los Períodos Arcaico y Formativo, 2008 年 11 月 29 日，国立民族学博物館。

⑧ Seki, Yuji  
Establecimiento del poder en la sociedad del período Formativo: desde el punto de vista de la sierra norte, Taller Conmemorativo Internacional "Centro y Procesos Sociales" Concepto vs. Contexto en los Estudios sobre la Civilización Andina para los Períodos Arcaico y Formativo, 2008 年 11 月 29 日，国立民族学博物館

⑨ Inokuchi, Kinya  
La arquitectura de Kuntur Wasi: secuencia y cronología de un centro ceremonial del Período Formativo, VI Simposio Internacional de Arqueología "El Período Formativo: Enfoques y Evidencias Recientes, 2008 年 9 月 5 日，カトリカ大学（ペルー）

⑩ Inokuchi, Kinya  
Nuevas Evidencias del Sitio Arqueológico de Pacopampa, Sierra Norte del Perú, VI Simposio Internacional de Arqueología "El Período Formativo: Enfoques y Evidencias Recientes, 2008 年 9 月 5 日，カトリカ大学（ペルー）

⑪ Seki, Yuji  
La Perspectiva del Proyecto Arqueológico Pacopampa como Experiencia de Cooperación Académica Internacional, Acto Académico conmemorativo de 50 Aniversario de la Misión Arqueológica Japonesa a los Andes, 2008 年 9 月 2 日，サンマルコス大学（ペルー）

⑫ 加藤泰建  
アンデス形成期社会とクントゥル・ワシ神殿，古代アメリカ学会第 12 回研究大会，2007 年 12 月 8 日，国立民族学博物館

⑬ 関雄二、フアン・パブロ・ビジャヌエバ、ワルテル・トッソ、アラセリ・エスピノサ、井口欣也、坂井正人  
パコパンパ遺跡半地下式広場の封印過程，古代アメリカ学会第 12 回研究大会，2007 年 12 月 8 日，国立民族学博物館

⑭ 加藤泰建  
古代アンデス文明の起源と遺跡発掘調査，日本実験力学学会 2007 年度年次講演会，2007 年 8 月 7 日，埼玉大学

〔図書〕(計3件)

① Onuki, Yosio, Kinya Inokuchi,  
Fondo Editorial del Congreso del Perú,  
Gemelos Prístinos. El Tesoro del Templo de  
Kuntur Wasi, 2011, 157 ページ

② 大貫良夫、加藤泰建、関雄二編  
朝日新聞出版、  
古代アンデス：神殿から始まる文明、  
2010年、271 ページ

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

加藤 泰建 (KATO YASUTAKE)  
埼玉大学・副学長  
研究者番号：00012518

### (2) 研究分担者

関 雄二 (SEKI YUJI)  
国立民族学博物館・研究戦略センター・  
教授  
研究者番号：50163093

井口 欣也 (INOKUCHI KINYA)  
埼玉大学・教養学部・教授  
研究者番号：90283027